第3回定例議会（512万円 一般会計）の補正を可決

第3回定例議会は9月27日召集，会期1日で提出議案満場一致で可決されました。
議案内容は次のとおりであります。

1. 専決処分の報告について
2. 寄附採納願いについて（7件）
3. 岩室村公民館設置条例の全部改正条例について
4. 新潟県町村職員退職手当組合を組織する地方公共団体の数の増減について
5. 昭和42年度岩室村一般会計補正予算（第6号）議定について
6. 昭和42年度岩室村広域簡易水道事業特別会計補正予算（第1号）議定について
7. 昭和42年度岩室村間瀬簡易水道事業特別会計補正予算（第1号）議定について
8. 昭和42年度岩室村国民健康保険特別会計補正予算（第1号）議定について
9. 巻町，岩室村葬祭施設組合の設立について
10. 請願　2件

昭和42年度岩室村一般会計補正予算（第6号）

歳　入

科目	既定額	補正額	計	概要説明
地方交付税	67,000	1,500	68,500	地方交付税
分担金及び負担金	4,503	700	5,203	保育料徴収基準改訂による増額分
国庫支出金	9,032	184	9,216	就学援助費国庫支出金 112，学校給食費補助84 学校給食施設(備品購入)補助44，要保護生徒通学費減額分△56
県支出金	21,618	655	22,273	へき地保育所措置費増額分21，選挙常時啓発費県費補助50 農業構造改善事業補完事務費補助56，交換分合費県費補助 178 参議院議員選挙委託費 350
財産収入	4,077	5	4,082	旧間瀬中学夏季貸付料
寄附金	1,931	1,185	3,116	PTA給食費寄附金 117，河川災害復旧費地元寄附金68 津雲田地内馬堀用水補修工事寄附金 1,000
諸収入	17,459	895	18,354	競輪事業収益 500，用地費立替金戻入 327 災害対策費県支出金48，水害見舞金20
歳入合計	189,148	5,124	194,272	

歳　出

科目	既定額	補正額	計	概要説明
議会費	6,881	10	6,891	郡議長会研修負担金
総務費	33,471	1,723	35,194	庁舎雨樋修理 100，車庫シャッター取付代 142 石油ストーブ用燃料購入代 130，その他庁舎内外補修代等 156 職員厚生費 120，用地購入立替金 328，常時啓発選挙費75 参議院議員選挙費 350，臨時雇賃金30 石油ストーブ購入代 180，その他 112，計 1,723
民生費	21,294	701	21,995	引揚者特別交付金事務臨時雇賃金30 各保育所給食費及補修代 695，和納保育所ステージ作成代55 職員給与費更正減△95，その他16
農林水産業費	30,962	1,276	31,238	馬堀用水改修工事費負担金 1,000 農業構造改善事業計画書印刷代10，カメラ購入代62 農地交換分合費 192，その他12
土木費	13,228	65	13,293	道路々面保護剤（ハイキープ）代57，河川協会負担金 8
消防費	4,863	416	5,289	各部落水害見舞代44，消防団災害地出動手当81 水害応急資材費等 283，災害地出動消防団員輸送費 8
教育費	49,985	608	50,593	要保護，準要保護生徒通学費及び学用品，給食費等 523 間瀬小補修費38，燕，西蒲原郡内体育研究会開催費(小学校)62 中学校給食用品補修，その他修理代69 中学校体育館脇排水路工事代 150 中学校給食用消耗品等購入代39 中学校給食用備品及び消火器購入代52 中学校通学バス代更正減△ 388，その他63
災害復旧費	2	138	140	8.28水害による白勢川床止工事費
予備費	366	187	553	更正増
歳出合計	189,148	5,124	194,272	

公共施設は大切に!!

高令者の皆さん教えて下さい。

封建時代の圧政に対して、農民騒動が各地に起こりましたが、慶応四年、下和納庄屋紋平に対して（庄屋の秕政、凶歉）打毀がおこり、巻、吉田に波及、津雲田、本町（吉田）を中心にして乱闘があった。明治三年『蒲原郡富永村外二

第三回「村民楽しく歩く会」十月二十九日

北陸街道と公共施設、史跡を訪ねて

家族そろってスポーツを楽しむ」――第一回が五月三日、石瀬部落周辺の史跡と天神山城跡を春の一日を山菜を摘みながら楽しく歩き、正しい郷土史の理解、歩くことによっての体力の保持家庭間の親睦をはかりました。その後村民の強い要望がありまして、第二回を実施することになりました。

この度は、昔のおもかげもなき、北陸街道を樋曾～石瀬を歩き、公共施設、百三十年の歴史を持ち、西蒲五千㌶の沃野を保つ樋曾隧道、岩室ほか三ケ町村衛生センター街道周辺の史跡を訪ねます―北陸街道―

それはかって越後と奈良京都を結ぶ幹線道路だった都の文化は海路と合せてこの道から入ってきた。その起源は、はっきりしないが文武天皇の慶雲年間（七〇四年～七〇七年）「越後の国府」が直江津に置かれたころから重要路線になったようだ。承久の変で敗れた